

冬どり葉根菜の播種期試験

北原 洋・阿部 昇一・逸見 俊五

(福島県農業試験場いわき支場)

Experiments of Seeding Time of Chinese Cabbage and Japanese Radish for Winter Cropping

Hiroschi KITAHARA, Shoichi ABE and Shungo HENMI

(Iwaki Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

福島県の野菜は米に次ぐ主要な作目となっている。その内容は露地野菜では夏秋キュウリ、夏秋トマト、夏大根、サインゲン等の夏秋品目が主要な部分を占めており、秋冬品目としては、ダイコン、ネギ、里芋等が一部の地方にあるのみである。このため、冬期間の気象条件に恵まれている浜通りから県南地方にかけては条件がよく、秋冬葉根菜の収穫期を1月～2月まで延長することは可能である。

そこで、本報はこれらの立地を生かした新作型の開発を目標として、冬どり葉根菜(ダイコン・ハクサイ)の播種期試験について昭和54年～55年の2か年間検討した結果の概要である。

2 試 験 方 法

〔ダイコン〕

供試品種は耐病総太り、冬どり大蔵を使用した。播種期は1月どりで9月10日、20日、2月どりで9月20日、30日で検討した。栽植距離は畦幅60cm、株間30cmとした。施肥量は10a当たり成分量で、N-20、P₂O₅-13、K₂O-15、苦土石灰-100、堆肥-2,000(kg)を施用した。

〔ハクサイ〕

供試品種は聖徳、ウインターを使用した。播種期は1月どりで9月5日、10日、2月どりで9月10日、14日(54年)又は16日(55年)で検討した。栽植距離は畦幅70cm、株間45cmとした。施肥量は10a当たり成分量で、N-18、P₂O₅-13、K₂O-16、苦土石灰-100、堆肥-2,000(kg)を施用した。

3 試 験 結 果

〔ダイコン〕

(1) 気象経過は、54年は秋から冬前半の1月末までは比較的温暖に経過したが、2月になってかなりの低温となり3月になると再び平年並みに回復した。また、数回の台風の被害に加えて降水量はかなり多く畑は常に多湿の状態では生育はやや不良であった。55年は冷夏ではあったが、秋は平年並みに回復した。12月～1月にかけては1時低温とな

ったがその後は平年並みに回復した。

(2) 両品種の根部の肥大は54年のように冬場が比較的温暖に経過した年は耐病総太りがよく、低温の場合は冬どり大蔵の方がよかった。

(3) 播種期別の根部の肥大経過は9月10日播きで11月下旬ごろに、9月20日播きで1月下旬ごろに、そして9月30日播きで2月中旬に販売可能(根重800g以上)な大きさになっている。なお、9月10日播きは耐病太りの肥大が早かったが、9月20日播きでは12月上旬までは耐病総太りがまさったが、その後は冬どり大蔵が良好となり低温期でもよく肥大した。9月30日播きは終始冬どり大蔵が良好であった。

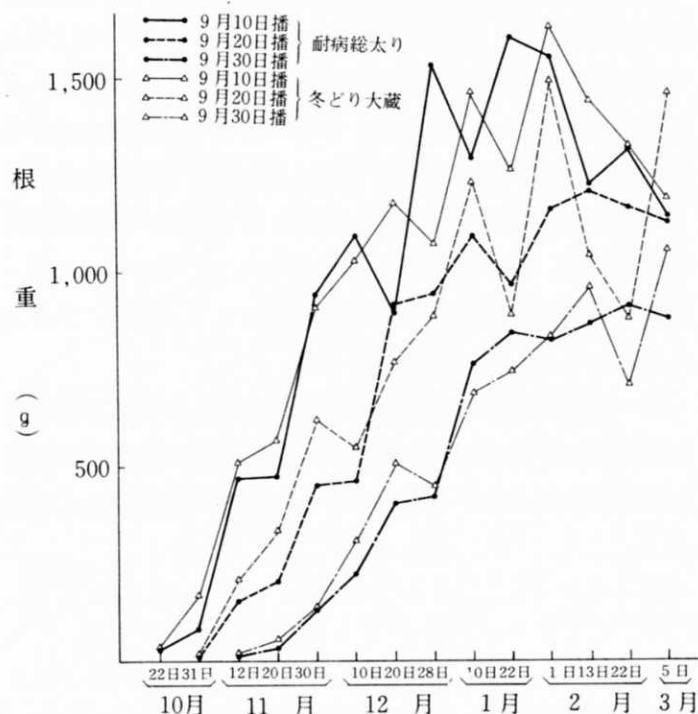


図1 品種別・播種期別の根部の肥大経過(昭54)

(4) 凍害は1月中旬と2月上旬に発生したがその後は回復している。表面と芯部では芯部の被害が多く調査部位別では地際部の被害が大きかった。その時の半旬別温度は地表の気温で0.5℃以下、地中10cmで-3.8℃以下であった。品種では1月どりのように地上部の傷みの少ない時の一時的な低温では冬どり大蔵より耐病総太りの方が被害が若干少ないが、2月どりのように地上部がかなり傷んでからの低温では冬どり大蔵の方が凍害の被害が少なかった。す入

りはごく一部に発生したが実用的には問題はなかった。

以上の事から、1月どりの品種は耐病総太りでよいが低温の早く来る年では低温でも肥大のすすむ冬どり大蔵がよいと思われる。播種期は9月10日～20日の間でよいが、平年の場合は耐病総太りの肥大がよすぎるので9月20日前後とした方がよいと思われる。2月どりの品種は低温に強い冬どり大蔵がよく、播種期は9月20日～30日の間でよいが秋冷が早くくる地域や年では、20日ころの早播きをした方がよいと思われる。

〔ハクサイ〕

(1) 気象経過はダイコンのところで述べたように54年は台風の影響で降水量が多く畑は過湿となり生育は不良であった。55年は低温が早くきたため遅播きで結球の充実が不良であった。

(2) 播種期別の結球重の経過は中早生の聖徳は9月5日播きで球重11月中旬に約1kg、11月下旬に1.5kg、12月上旬に約2kgとなったが12月20日以降は減少した。晩生のウインターは聖徳より1週間から10日遅れて球は肥大し、1月以後の低温期でも球は充実した。9月10日播きでは聖徳の球重は11月下旬で1kg、12月中旬で1.5kg、1月上旬で2.0kg前後となりそれ以後は減少した。ウインターは1月上旬まで聖徳よりやや遅れて肥大したが1月中旬以後も引き続き増加している。しかし、1月中旬までは聖徳の方が球重もやや重く、緊りも良好であった。9月14日播きは12月上旬までは両品種とも同様な生育であり聖徳の球重は12月中旬で1kg、1月中旬以降1.5kgになっている。ウインターは後半の充実が悪く1月上旬に1kgとなったが、2月末になっても1.5kgにならなかった。

(3) 耐寒性は結球の状態とも関係はあるが1月下旬ころから聖徳に凍害がみられ結球の先端部が傷み厳寒期には軟化の状態になったが、ウインターは凍害の程度が軽く厳寒

期でも販売上の問題はないと思われる。

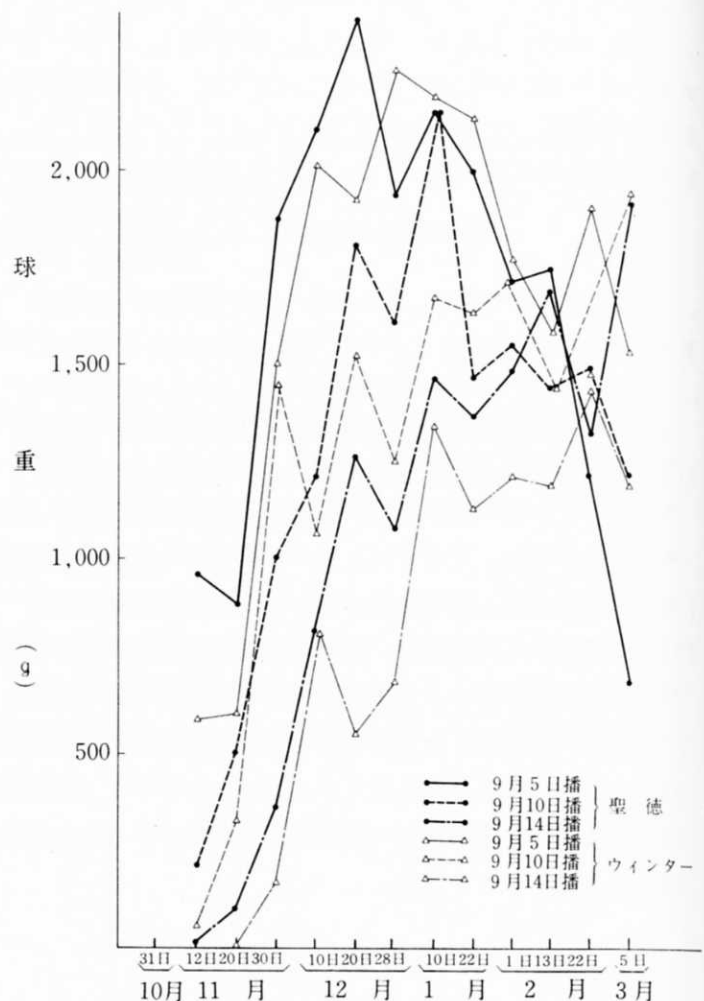


図2 品種別・播種期別の結球重の経過(昭54)

以上のことから、1月どりの場合、生育と結球の早い中早生の聖徳が適しており播種は9月10日前後がよいと思われる。2月どりの場合は、耐寒性のあるウインターを用い、播種期の限界は9月10日ころと思われる。なお、55年のように低温が早くくる年や地域では、更に播種期を早めて生育期間を長くする必要があると思われる。